

**第2回 仙台I ソンタクラブ 東北大学大学院
女子学生のための国際学会発表渡航支援事業 報告書**

平成 2018 年 9 月 28 日記入

所属部局名: International Development Studies
学 年: Doctorate 3rd year
氏 名: Minakshi Keeni

1. 渡航先：
仙台からインドネシア、マカッサル
2. 参加国際学会等の名称：
The 6th Conference of Asian Rural Sociology Association
3. 開催期間：
26th August, 2018 to 1st September, 2018
4. 旅行期間：
7日
5. 発表演題：Impact of women participation in the Dorbar Shnong: Case Study of Meghalaya, India
6. 参加した国際学会等の状況並びに感想：
学会は南アジア及び東南アジアからの発表者が大部分を占めていた。一日目は農村の生産持続可能性について、二日目は農村の地方行政について、三日目はジェンダーについてであった。どのプレゼンテーションも非常に興味深く、他の研究者が用いていた様々な研究手法について深く理解することができた。特に学会の議長である Saleh 教授による、山岳地帯と海の近くに住む人々の意志決定における女性の役割の違いについての発表がとても興味深いものだった。
7. 本事業に対する要望等:
基本的に発表者に与えられたのは 20 分の発表時間と 10 分の質疑応答の時間であった。しかし、私のセッションの議長の采配により、私の発表では質疑応答の時間は 30 分程度設けることができた。そこでの議論はとても興味深く、自分の研究に対して多くの意見、評価を得ることができた。この学会へ参加する機会を与えてくださった出資団体の関係者の皆様に感謝したい。

この報告書は、本事業の出資団体である「仙台 I ソンタクラブ」への事業成果報告として提出します。※ この報告書は、本学男女共同参画委員会ホームページに掲載します。